

病棟におけるカンファレンスの取り組み

～転倒転落のインシデント減少を目指して～

医療法人社団 喜生会 新富士病院

看護師 ○清生 心

MD 川上 正人

MD 中島 一彦



医療法人社団 喜生会 概要

◆新富士病院

- ・病床数:206床
- ・診療科目:
内科・神経内科・消化器内科・
腎臓内科・皮膚科・歯科・
リハビリテーション科・
透析センター
- ・障害者施設等入院基本料 10:1
- ・療養病棟入院基本料 I (20:1)



◆併設施設

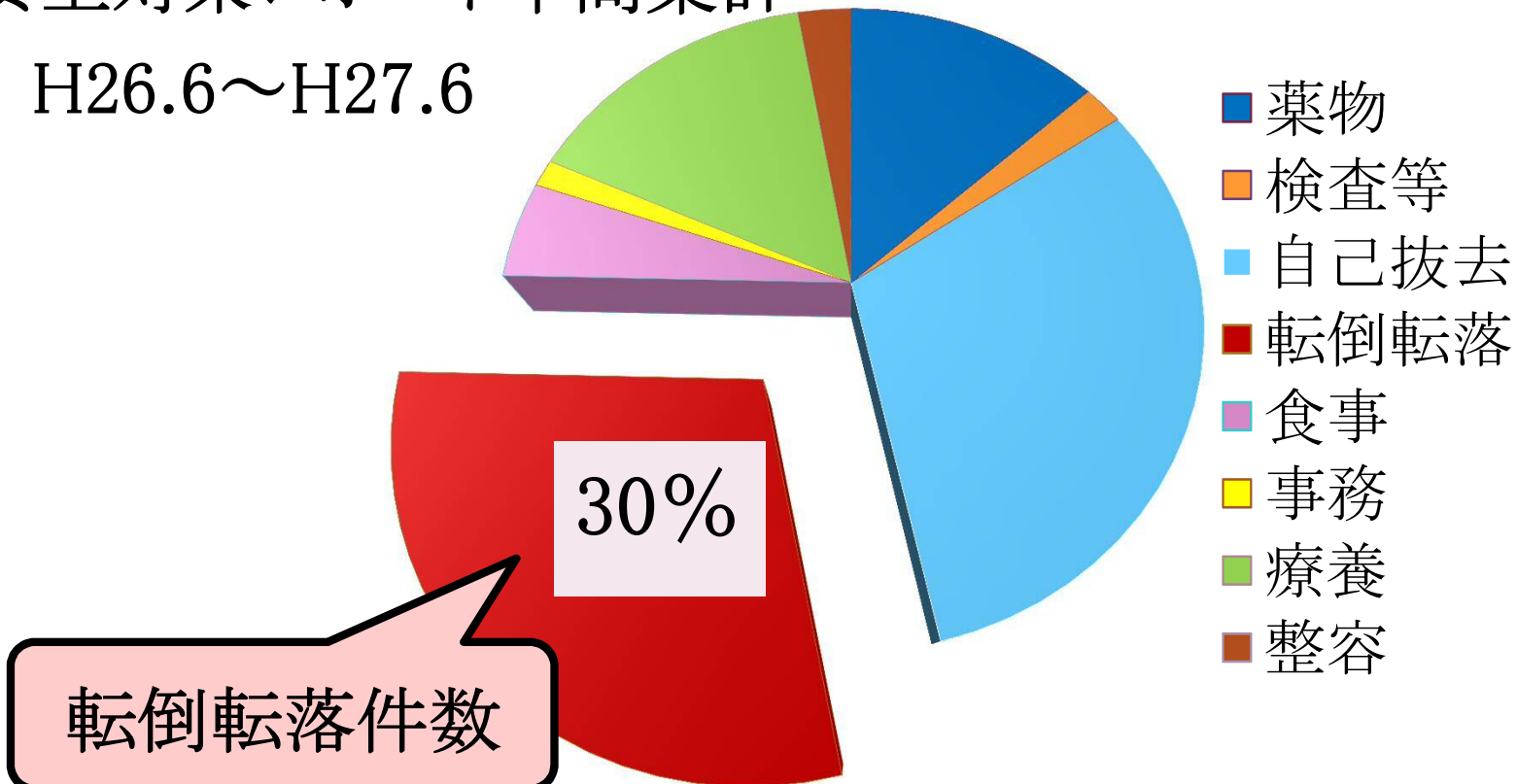
- ・介護老人保健施設
ヒューマンライフ富士 定員195床
新富士ケアセンター 定員104床
- ・通所リハビリテーション
ヒューマンライフ富士 定員60人
新富士病院 定員25人
- ・安心みまもりセンター
訪問看護ステーション、訪問介護
居宅介護支援事業所、福祉用具貸与、
在宅介護支援センター
- ・健康管理センター

背景

当病棟
安全対策レポート報告
170件/年

安全対策レポート年間集計

H26.6～H27.6



転倒転落件数

研究目的

【転倒転落会議】

1回/月



1~2回/週

減少には至らなかった
原因として...

少人数

決まった
スタッフ

情報把握に
個人差がある



カンファレンスの見直し

転倒転落の減少

研究方法

- ◎ 期間:平成27年4月～6月の3ヶ月間
- ◎ データ分析:平成26年6月～平成27年6月
- ◎ 対象者:新富士病院 南館2階 入院患者
- ◎ 方法:朝の申し送り後、カンファレンス5～10分実施。
ファイル作成、曜日毎に用紙に評価。
看護師、介護職員、リハビリスタッフの参加。

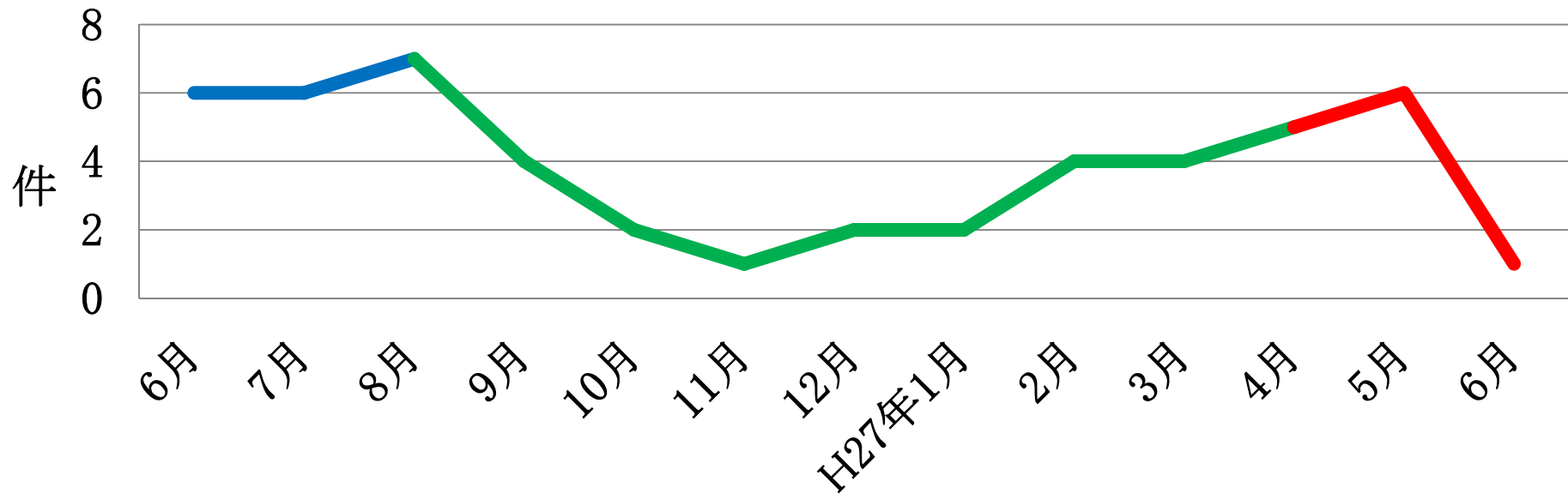
結果 《転倒転落報告件数》

カンファレンス回数

~H26.7
1回/月

H26.8~ H27.3
1~2回/週

H27.4~
毎日



対象患者数

4~5名/月



1~3名/月



1~2名/月

◎患者A

平成25年2月入院

病名：進行性核上性麻痺

年齢：90歳 性別：男性

ADL：介助のもと車椅子移乗が出来る。

【特徴】

- ・オムツ内排泄時、体動増加。
- ・起き上がりみられるが座位保持困難。
- ・認知症あり、昼夜逆転傾向。

【対策】

- ・適宜排泄確認。定時のオムツ交換回数を増やす。
- ・まった君 ⇒ ウーゴ君へ変更。
(マット型) (クリップ型)
- ・日中離床し、覚醒を促す。

発生件数：1～2件/月⇒0～1件/月

事象レベル：レベル0～3a⇒レベル0へ

◎患者B

平成26年12月入院

病名：アルコール性肝硬変、肝性脳症、認知症、ウェルニッケ脳症

年齢：54歳 性別：女性 ADL：介助なしで車椅子移乗が出来る。

【特徴】

- ・帰宅願望が強い。
- ・下肢、体幹の筋力低下。
- ・意識レベルにムラあり。
- ・日中車椅子にて見守り。
- ・便秘傾向、下剤内服。便意にて車椅子からの立ち上がりあり。

【対策】

- ・離床し、気分転換を図る。
- ・まった君⇒ウーゴ君へ変更。
(マット型) (クリップ型)
- ・衝撃吸収マット設置。
- ・便意ある際、トイレ誘導。

発生件数：1～2件/月⇒1～5件/月

事象レベル：レベル1～3a⇒レベル0～2へ

◎患者C

平成27年5月入院

病名：間質性肺炎 低酸素血症

年齢：74歳 性別：女性 ADL：介助なしで車椅子移乗が出来る。

【特徴】

- ・入院直後で環境に慣れていない。
- ・呼吸苦や不安の増強にてパニックになる。
- ・前情報にて転倒転落の既往がなかった。
- ・意思疎通可能。

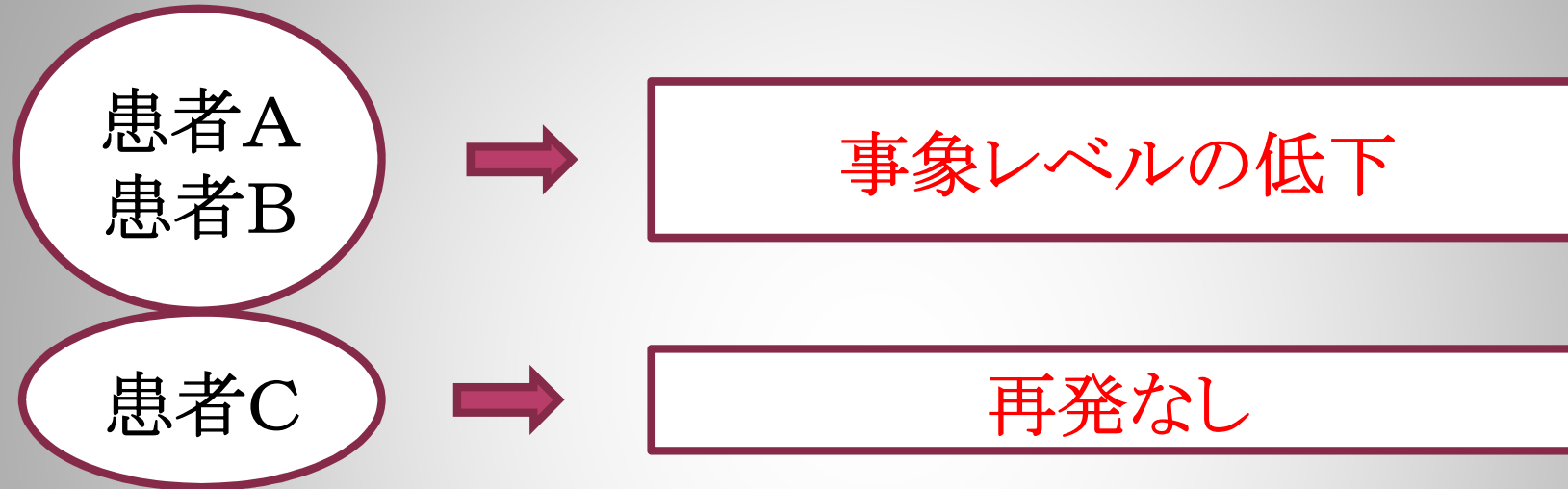
【対策】

- ・用がある際はナースコールを押す様に説明する。
- ・ベッド高さ調整、まった君設置。
- ・患者の訴えを傾聴。

発生件数：1件のみ

考察

毎日カンファレンスを実施して…



患者の特徴を考慮し、対策検討
入院当日及び翌日カンファレンスを実施

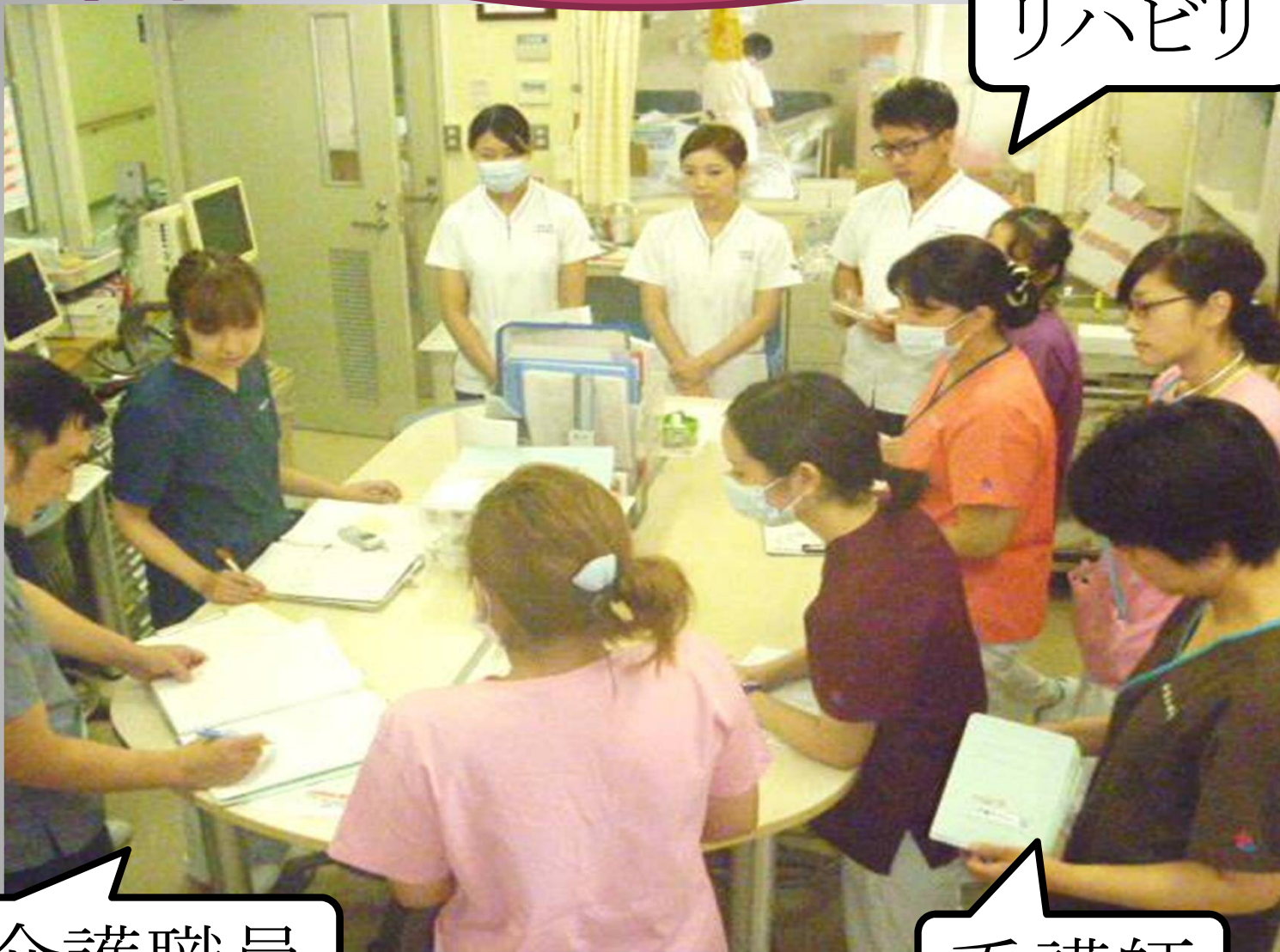


情報共有、危険リスクの把握

結論

朝の申し送り時

リハビリ



介護職員

看護師

《転倒転落を減少させるためには》

- ◎患者ごとに危険リスクの評価と対策の検討
- ◎スタッフ間の情報共有、他職種の視点からリスクの検討
- ◎PDCAサイクルを用いて継続的に行う。

重大事象の予防
安全な療養環境の提供